

越後の主峰は全面滑走可能

越後 越後駒ヶ岳 山スキー

銀山平から越後駒ヶ岳をピストンする計画を立てた。登山道のある尾根を辿るのが一般的だが、私たちの足回りは山スキー、滑り降りたい白沢の様子を知るため、行きも沢筋を進むことにした。

男（「おっさん」と読む。以下同じ。）2人だけの小屋泊まりを覚悟していたが、思いもかけず、色艶やかな花々を連れた飯田会長パーティーと合コンできることになった。

4月22日（土）：雨のち曇り時々晴れ

雨垂れが車の屋根を叩く音に起こされる。仮眠場所の「ゆびお」には、会山行でもないのに4パーティーが集結していた。朝から賑やかなはずが、激しい降り方に沈滞ムード。とりあえず銀山平の石抱橋に移動して様子見することに。1日目は駒の小屋に到着すればよいので、正午までなら出発を遅らせても大丈夫だろう、と車中で休む。

同じく空模様を見ていた飯田パーティーは、まだ少し雨が降るなかを10時に出発。ほどなく雨が上がった様子なので、私たちも1時間遅れて出発した。

北ノ又川沿いに左岸を歩く。柳沢を過ぎるとトレースは登山道のある尾根に向かうが、私たちはそのまま沢沿いを進む。さっきまでの雨が嘘のように晴れ間が出てきた。この時期の陽射しはすでに力強く、とてもジャケットを着ていられないくらいになった。

白沢は思ったよりも沢が出ていた。両岸が狭まってくると左岸の巻きに追いやられる。小さく巻きたかったが、急斜面なうえ、尾根を巻いた先で大きく滝が出ていたので高巻きに。標高100mくらい上げてから、尾根を回り込むと上から沢の様子がよく見る事ができた。道行山の方へ向かう右俣を分けて沢が屈曲するところ（標高930m付近）からはしっかり雪があり、沢が埋まっている。いったんシールを外して、屈曲点目がけてトラバース気味に斜面を滑り、沢床に戻った。

沢筋の登高は、まだ新しそうな断面の雪崩跡があったり、落ち切っていない様子の斜面のそこかしこにクラックが走っていたり、左右の上方を見ながら、気持ちのいいものではなかった。むろん眺望もない。それでも、尾根伝いにアップダウンを繰り返すのに比べ随分と楽なはず。百草ノ池に詰め上げる頃、先行する飯田パーティーの4人の姿が見えた。

久しぶりの泊り装備を担いでの歩きで、最後は修行の気分。日が陰り出すと雪面が硬くなり、小屋直下の急登は、アイゼンを付けるほどではなかったが、ツボ足でごまかした。ようやく到着した駒の小屋にいたのは飯田パーティーのみで、今晚は貸し切

【日程】

2017年4月22日（土）
～23日（日）

【メンバー】

森山（L）、長山

【地形図】

奥只見湖、八海山

【記】 森山



枝沢からの雪崩跡

りだった。断熱マットあり、毛布ありで快適でした。合わさってみれば男3人、女（「おじょうさん」と読む。以下同じ。）3人。ちょうどよい「合コン」になりました。酒も肴も十二分、そして2年近く前に私がお試し山行でトマの食事の洗礼を受けた、竹澤さんの生レモンつきのタンドリーチキンを再び食べることができた。言うことなし。それにしても、女3人もいると賑やかだこと。

4月23日（日）：曇り時々晴れ

朝4時に起きて山頂でご来光という話もあったが、外はガスで真っ白。もう一度眠った後の6時に起き出して、ゆっくり朝飯を食らっているといくらか視界も利くようになってきた。日帰り装備で飯田パーティーとともに山頂を踏んだ。残念ながら晴れなかったのは、やはり山頂ガスを呼ぶという会長様の御力によるものか。

さあお待ちかね。歩き組に見送られ、私たちスキー組は、オツルミズ沢へスキーを向ける。昨夕の感触からは、昨日の午前中の雨がしみ込んだ雪がガチガチに固まっていそう、と心配していたが、どうしてどうして、十分にコントロールできる及第のコンディションじゃないですか。オツルミズ沢源頭部は、天上の楽園のようなところ。明るく開け、緩めの斜面が連続する、私好みのところでした。標高差で500m弱を満喫して登り返した。飯田パーティーが離れたせいとか、小屋に辿り着く頃、山頂もガスが消えていた。

デボ品を回収して、今度は白沢へ向かう。標高1763m小ピークを過ぎてから尾根を外れて沢に滑り込む。吸い込まれるような感覚。こちらは小屋から屈曲点まで標高差1000m弱で滑り応えあり。昨日の登りで高巻いた箇所は、シールを付けて帰りも高巻いた。

「白銀の湯」で汗を流した後は、もう一つのお待ちかね。「じねん」で季節の山菜や草花を味わった。コゴミ、フキノトウ、つくし、カタクリ、、、雪解けと新緑の季節です。4パーティーもこの山域で計画した理由はきっとここに立ち寄りたかったのでしょう。

【行程】

4/22 石抱橋（11:05）～標高約930m屈曲点（14:00）～百草ノ池（15:53）～駒の小屋（17:20）

4/23 駒の小屋（8:35）～山頂（8:53）～オツルミズ沢の約標高1570m（9:35）～駒の小屋（10:25/45）
～標高約930m屈曲点（11:20）～石抱橋（13:30）



“山頂ポーズ”
腰を落として決まったぜ！



オツルミズ源頭



白沢に吸い込まれる長山さん

歩きとスキー合コンもいよいよね

越後三山 越後駒ヶ岳

「えちこま」に登るのは二回目だ。前回は残雪期だった。思えばその山行の後にモチベーションがあがり山岳会を探すほど山に行きたくなったと言ってもいいかもしれない。という個人的な思いを隠し持ちつつ、今回は入会したての高橋さんとの初山行を楽しみに出発した。

4/22 (土) 雨、晴れ、ガス

「じねん」詣でなのだろうか。4パーティもの面々が小出に集まった。早朝、雨音に目が覚める。かなりの土砂降りではないか。それでも長山さんはグーグー寝ていた（さすがワングル出身）。なかなか動きださない様子の他のパーティを横目に、リーダー飯田さんの一声で銀山平に向かう。しばらく待っていると雨脚が弱くなってきたので、タイムリミットの10時にこれまた飯田さんの強い一声で出発した。沢沿いの林道を歩きだすと引き返してくるソロの方がお二人。すっかり濡れねずみ状態だ。お気の毒に。しかし我々が取り付きに着いた時はすっかり雨もあがり青空が見えてきた。飯田さん、さすが素晴らしい判断力です。時間は11時。この頃まで車で待機していた森山Pもようやく出発したらしい。

道行山手前の尾根に乗ると越後駒ヶ岳がボーっと見えた。霞んでいるので、とてつもなく大きくみえる。まるで神々の頂のようだ。その後も順調に歩を進め小倉山をトラバースする。このあたりで日帰りだという4人組にあった。土砂降りの早朝から行動されていた勤勉な方々だ。今回の山行で歩きパーティにあったのは結局この人たちだけだった。

百草ノ池あたりをえっちらおっちら登っていると、白沢上流をスキーであがってくる森山Pが見えた。見ている方もひやひやするくらいの急傾斜を登ってくる。疲れたなー、前駒はまだかとブツブツやっていたら沢で使っているお気に入りのキャップを飛ばされてしまった。小倉山を過ぎてもしばらくは晴れていたのに1700くらいになったせいかガスガスを視界が悪くなってきた。真っ白ななか、最後の急坂を気合で登りきり小屋に到着した。

2パーティ合同での宴会は思った通り楽しく、竹澤シェフと飯田シェフの競演はそれはそれは豪華であった。

4/23 (日) ガス、晴れ

昨夜、満点の星空だったのに、山頂に向かうとなぜかガスの中。飯田さん曰く「今年はガス男ではない」とのことなので、飯田さんのせいにはできなかったが誰かのせいにしたいので、その場になかった森山さんのせいにすることにした。

スキーペアはオツルミズ上部を滑るとの

【日程】

2017年4月22日(土)
～4月23日(日)

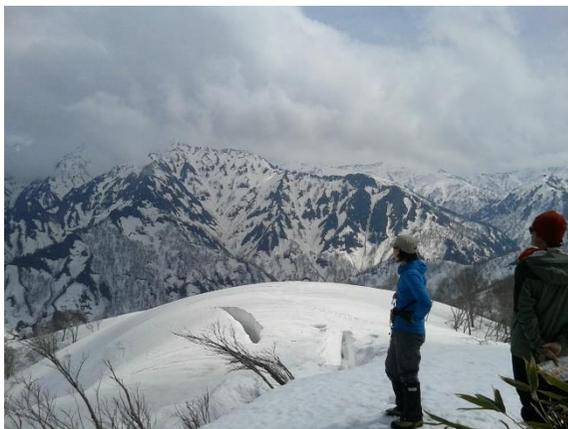
【メンバー】

飯田(L)、福永、竹澤、
高橋

【地形図】

八海山・奥只見湖

【記】福永



ことで、ガスの中、消えていった。雪山シーズンはスキーマンバーと一緒にすることがないので、とっても新鮮で、さらにお二人ともかなりかっこよかったです。

我々も昨日の道を帰るのだが、あんなに大変だった登りが、あっという間に道行山だよ…というスピードで下った。そういえば、睡眠不足のはずの高橋さんが終始先頭で歩き、とっても元気だったのが印象的でした。

【行程】

4/22 (土) 銀山平 (10:00) ～道行山 (13:00) ～駒の小屋 (16:40)

4/23 (日) 駒の小屋 (8:30) ～越後駒ヶ岳 (8:50) ～駒の小屋 (9:30) ～銀山平 (13:30)

